

《原著》

管理栄養士・栄養士を目指す学生の入学時における学科志望動機

安友裕子^{*1} 山中克己^{*1} 平田芳浩^{*2} 上妻瑞江^{*1}

要旨

〔目的〕管理栄養士養成施設である大学、栄養士養成施設である短期大学または専門学校に入学した学生の志望動機を明らかにする。

〔方法〕2011年7月に大学、短期大学、専門学校に在籍している学生を対象に、配票法で21項目のアンケート調査を実施した。

〔結果〕同意を得られた学生は、大学生160名、短期大学生86名、専門学校生58名であり、合計304名から回答を得た。21項目中、上位5項目とその％は、「食べること・料理が好き」94.4%、「栄養に興味があった」93.1%、「身近な人を助けたい」81.6%、「人の役に立ちたい」79.9%、「将来管理栄養士の資格をとりたい」76.6%であった。「将来管理栄養士の資格を取りたい」者を施設別でみると、大学100%、専門学校69.0%、短期大学38.4%であった。下位5項目とその％は、「家族が管理栄養士・栄養士」5.3%、「知人が管理栄養士・栄養士」7.2%、「たまたま合格した」10.5%、「初任給が高いと感じた」14.1%、「世界で活躍したい」17.8%であった。

1. 序 論

現在、栄養学に基づいた職業としては、管理栄養士と栄養士が代表的なものである。これらの資格は栄養士法で定められており、栄養士免許は養成施設の卒業を以って都道府県知事より与えられ、管理栄養士免許は管理栄養士国家試験に合格した者に対して、厚生労働大臣が与えることとなっている。1947年に制定された栄養士法は、時代とともに改正が行われてきた。2002年の栄養士法一部改正では、管理栄養士の資格が登録制から免許制になり、管理栄養士の業務内容が明確化され、管理栄養士国家試験の内容も見直された。特定給食施設を始め各施設でも管理栄養士・栄養士の配置をするよう規定され、2008年から始まった特定保健指導では管理栄養士がその指導に当たるなど、その活躍の場は広がっている。

管理栄養士・栄養士のニーズの高まりとともに

に、その養成校数も上昇してきた。現在、日本における管理栄養士養成施設（2014年度）は135校、定員10,550名である。栄養士養成施設は全体で166校、11,620名であり、うち大学18校、短期大学108校、専門学校30校、その他専攻科がある⁽¹⁾。また、第29回（2015年3月実施）管理栄養士国家試験の受験者数は19,884名、合格者は11,068名（55.7%）である。そのうち管理栄養士養成課程を卒業後、新卒として受験した者の合格率は95.4%である⁽²⁾。

このような現在、管理栄養士・栄養士という職業を志し、選択する動機はどのようなものであるか。町田らは、新入生の職業へ対する魅力と現職の管理栄養士・栄養士のやりがいを調査しており、新入生のうち職業を魅力と感じている者は6割以上であった一方、現職の管理栄養士・栄養士の職業への“やりがい”を感じていた者はそれを下回ったと報告している⁽³⁾。社会における管理栄養士・栄養士の実務と学生の描く

*1 名古屋学芸大学管理栄養学部

*2 名古屋栄養専門学校

憧れに多少のズレが起こっていることが推測される。

我々は看護学生の入学時における志望動機を検討し、報告を行った⁽⁴⁾。他にも看護学生の志望動機に関する調査研究は多くみられ、教育に反映されてきている。一方で、管理栄養士・栄養士を目指す学生を対象とした研究としては、坂本らの短期大学生を対象とした研究の一部として入学時の動機が質問されていたり⁽⁵⁾、入学後の職業意識やその変化を検討した研究^(3,6)などがあるが、その数は少ない。また、管理栄養士養成校と栄養士養成校がある中で、入学時の志望動機を複数の養成施設校にて行った調査は見られない。今回は管理栄養士・栄養士を目指す学生に対し、どのような理由で管理栄養士・栄養士という分野を選択し、進学をしたのか、進学志望動機を分析し報告することとした。

2. 目 的

学生はどのような動機で「管理栄養士」「栄養士」という職業を志望しているのか。また複数の養成校（大学・短期大学・専門学校）において、入学志望動機にどのような特徴があるのかを明らかにし、今後の教育・指導への課題を検討する。

3. 方 法

1) 調査対象者

管理栄養士養成施設として大学（1校）、栄養士養成施設として短期大学（1校）と専門学校（1校）に行った。対象は2011年7月に各養成施設に在籍し、同意が得られ同意書に署名した学生である。

2) 調査年月

調査は、2011年7月に行った。

3) 調査票

我々は「看護学生の入学時における学科志望動機」⁽⁴⁾において、先行研究を参考に、看護師志望動機についてのアンケート項目を検討、作成した。そのアンケートを管理栄養士・栄養士の進学動機に一部改変したものを使用した（資

料1）。

4. 倫 理

調査協力者には、研究の主旨、目的等を説明し、同意が書面で得られた人のみを対象とした。なお、この研究は名古屋学芸大学倫理委員会で承認を得られている。

5. 統計処理

アンケートの各項目について度数分布表を作成し、検討を行った。

6. 結 果

1) 調査対象者

無回答項目のあるものを除き、入学前の最終学歴が高等学校で22歳以下の学生が回答したものを集計した。大学生160名、短期大学生86名、専門学校生58名、合計304名を解析対象とした。

2) 管理栄養士・栄養士を志望する学生の入学志望動機

管理栄養士・栄養士を志望する学生の入学志望動機について、3つの養成施設全体の結果を図1に示す。全体では1位；質問18「食べること・料理が好き」94.4%、2位；質問11「栄養に興味があった」93.1%、3位；質問13「身近な人の役に立ちたい」81.6%、4位；質問12「人の役に立ちたい」79.9%、5位；質問21「将来管理栄養士になりたい」76.6%であった。

下位5項目は、質問8「家族が管理栄養士・栄養士」5.3%、質問9「知人が管理栄養士・栄養士」7.2%、質問20「たまたま合格した」10.5%、質問16「初任給が高いと感じた」14.1%、質問14「世界で活躍したい」17.8%であった。

3) 管理栄養士養成施設（四年制大学）の学生の入学志望動機

管理栄養士を志望する大学生のみを対象とした結果を図2に示す。志望動機上位は1位；質問21「将来管理栄養士になりたい」100%、2位；質問11「栄養に興味があった」96.3%、3位；質問18「食べること・料理が好き」95.0%、

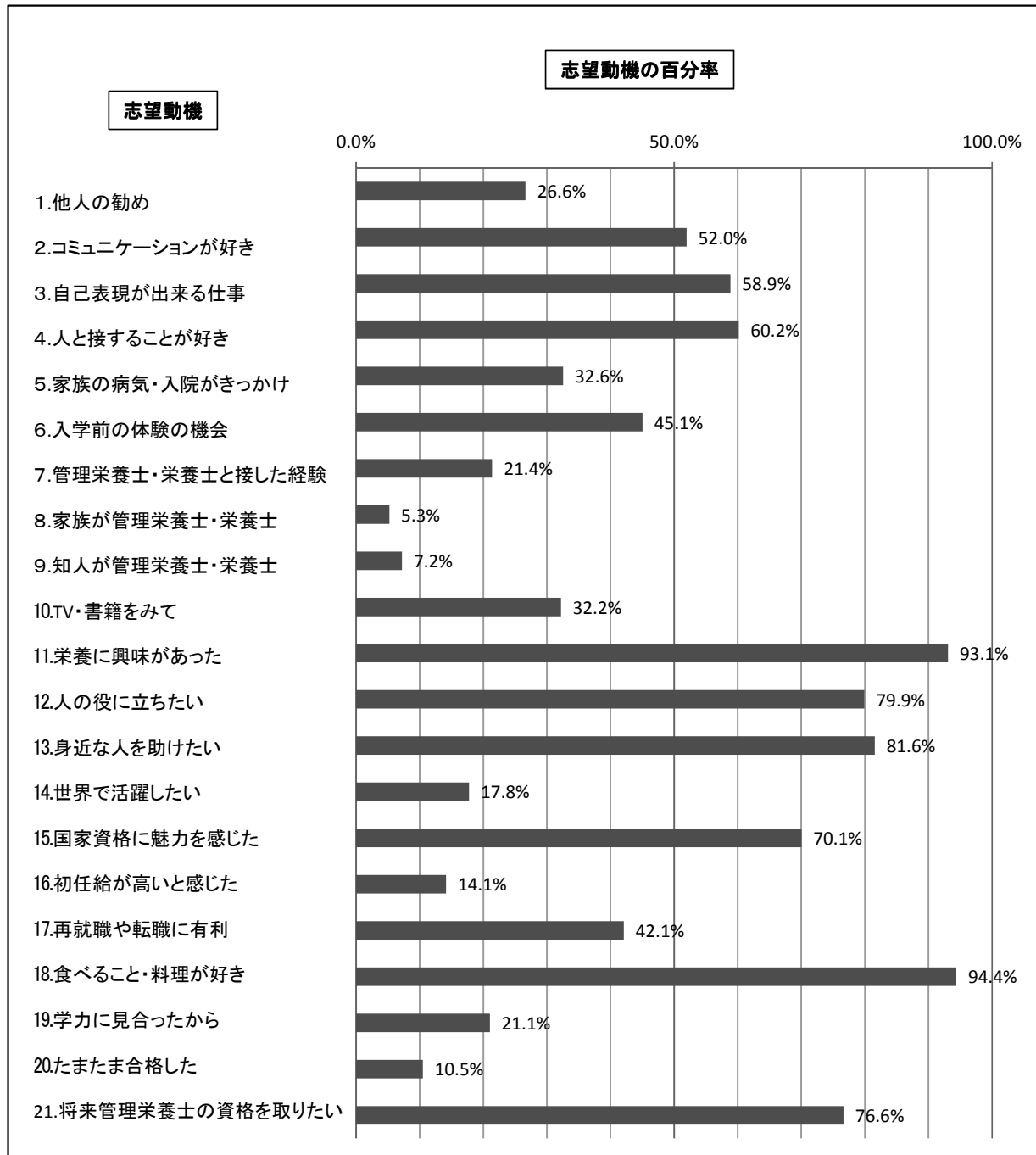


図1 大学、短期大学、専門学校における管理栄養士・栄養士の入学志望動機（全体 n=304）

4位；質問12「人の役に立ちたい」86.9%、5位；質問13「身近な人の役に立ちたい」85.0%であった。

下位5項目は、質問9「知人が管理栄養士・栄養士」6.9%、質問8「家族が管理栄養士・栄養士」7.5%、質問20「たまたま合格した」9.4%、質問16「初任給が高いと感じた」17.5%、質問19「学力に見合ったから」17.5%であった。

4) 養成校別にみる管理栄養士・栄養士を志望する学生の入学志望動機

入学志望動機を大学、短期大学、専門学校の養成校別に集計したものを図3に示した。

短期大学では、1位；質問18「食ること・料理が好き」96.5%、2位；質問11「栄養に興味があった」86.0%、3位；質問12「人の役に立ちたい」79.1%、4位；質問13「身近な人の役に立ちたい」77.9%、5位；質問4「人と接す

ることが好き」52.3%であった。

下位5項目は、質問8「家族が管理栄養士・栄養士」3.5%、質問9「知人が管理栄養士・栄養士」4.7%、質問14「世界で活躍したい」5.8%、質問20「たまたま合格した」10.5%、質問16「初任給が高いと感じた」11.6%であった。

栄養士専門学校では、1位；質問11「栄養に興味があった」94.8%、2位；質問18「食べること・料理が好き」89.7%、3位；質問13「身近な

人の役に立ちたい」77.6%、4位；質問21「将来管理栄養士になりたい」69.0%、5位；質問12「人の役に立ちたい」、質問15「国家資格に魅力を感じた」62.1%であった。

下位5項目は、質問8「家族が管理栄養士・栄養士」1.7%、質問16「初任給が高いと感じた」8.6%、質問9「知人が管理栄養士・栄養士」12.1%、質問20「たまたま合格した」13.8%、質問1「他人の勧め」17.2%であった。

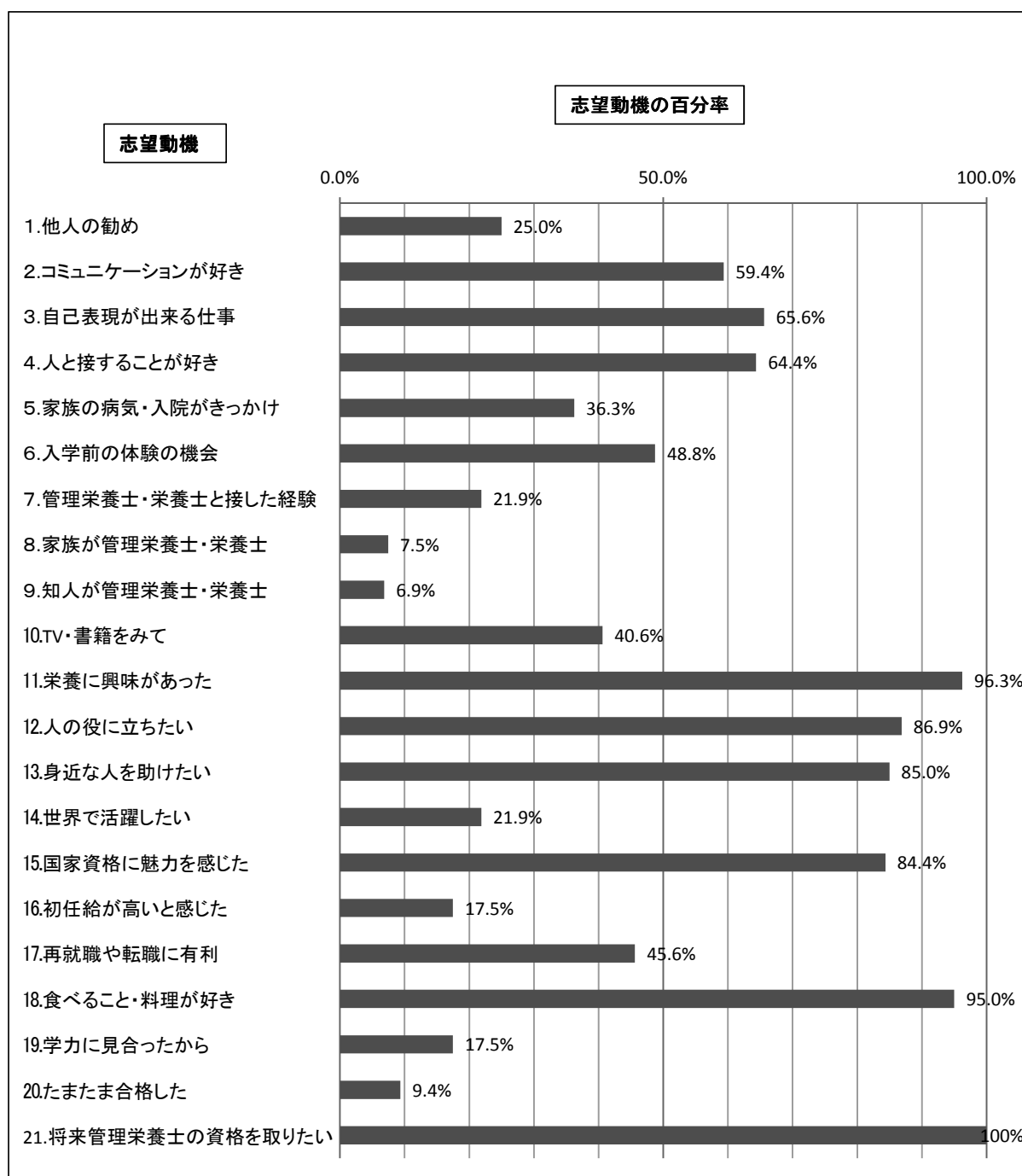


図2 大学における管理栄養士の入学志望動機 (n=160)

次に、アンケートの質問項目を6項目のキーワード「興味」、「人助け・社会的役立ち」、「資格」、「人が好き」、「きっかけ・あこがれ」、「他の

人の勧め・偶然」に分けて検討した。

(1)「興味」(質問11、18)は、「栄養に興味があった」、「食べること・料理が好き」とともに

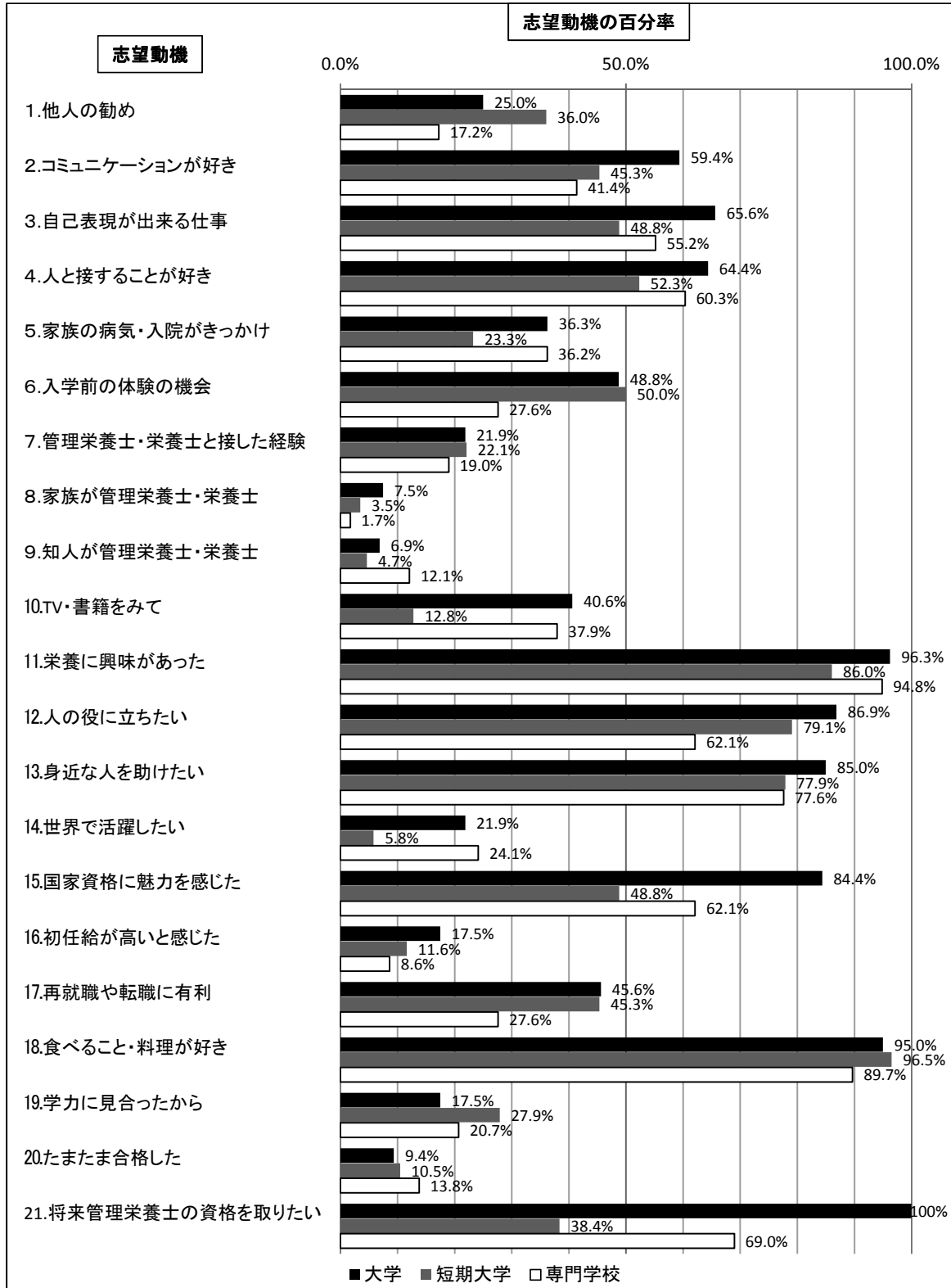


図3 養成施設別 管理栄養士・栄養士の入学志望動機
(大学 n=160、短期大学 n=86、専門学校 n=58)

90%ほどと3校共に高かった。

(2)「人助け・社会的役立ち」(質問12、13)として「人の役に立ちたい」、「身近な人を助けたい」は、大学で85%以上、次いで短期大学、専門学校の順に高かった。

(3)「資格」(質問15~17、21)として「国家資格に魅力を感じた」、「将来管理栄養士の資格を取りたい」は、大学で一番高く、次いで専門学校生が60%、短期大学生では50%以下であった。専門学校では、「将来管理栄養士の資格を取りたい」、「国家資格に魅力を感じた」が動機の上位を占めていた。

「初任給が高い」は、大学17.5%で次いで短期大学生、専門学校生の順に低くなっていた。「再就職や転職に有利」は、大学生、短期大学生は45%であったが、専門学校生は27%であった。

(4)「人が好き」(質問2、4)は、「コミュニケーションが好き」は大学生で約60%、短期大学生、専門学校生は40%であった。「人と接することが好き」は大学生で65%、次いで専門学校生、短期大学生であった。

(5)「きっかけ・憧れ」(質問5~10)は、質問6「入学前の学習体験」が大学生、短期大学生で50%であった。「TV・書籍を見て」が大学生、専門学校生で40%であった。質問5「家族の病気・入院がきっかけ」は20~30%であった。質問8、9の「身近に管理栄養士・栄養士がいた」は10%以下と低かった。

(6)「他の人の勧め・偶然」(質問1、19、20)は、「他人の勧め」、「学力に見合ったから」は、短期大学生が他の学生より高かった。全体では25%で低かった。

以上の6項目のキーワードのうち、「興味」「人助け・社会的役立ち」「資格・国家資格」が上位5位以内に入り、「人が好き」「きっかけ・憧れ」「他の人の勧め・偶然」は中位から下位に位置した。

7. 考 察

管理栄養士・栄養士の志望動機として、キーワード「興味」の質問項目である「食べること・料理が好き」、「栄養に興味があった」に90%以

上が「はい」と回答していることから、好きであること、つまり自分の興味・関心が高い分野として選んでいる者が多いということが分かった。

「人助け・社会的役立ち」の質問項目である「身近な人の役に立ちたい」、「人のために役立つ仕事がしたい」が上位にあることから、管理栄養士は社会貢献、慈善そして博愛の精神に価値観を持つ者が志望する傾向が強いことが考えられた。

「資格、国家資格」も上位にあることから、自己の将来への展望と資格取得を強く意識して進学した人が多いことが明らかになった。同じ栄養士課程であり、実務経験年数を積むことで管理栄養士国家試験の受験資格が与えられる短期大学と専門学校であるが、「将来管理栄養士の資格を取りたい」という質問に対し、短期大学生は38.4%であったのに対し、専門学校生は69.0%であった。短期大学生と専門学校生で卒業後の職業選択にも差があることが考えられた。坂本らの研究では、短期大学卒業生のうち、41.0%が管理栄養士の資格を取得したいと回答している⁽⁵⁾、同様の結果が示されている。栄養士養成施設においても卒後教育として管理栄養士国家試験対策の講義などのニーズが高いと考えられた。

また、大学生及び専門学校生の約45%が「再就職や転職」がしやすいことを志望動機としていることから、就職には資格・技術取得が有効であるという現実的な側面で将来設計をしていると考えられた。一方で、「初任給が高いと感じた」者は14.4%と低い。実際、2014年賃金構造基本統計調査⁽⁷⁾によると栄養士(女性)の20~24歳の所定内給与額は187,500円であり、他の職業に比べ特別高いというわけではない。学生も賃金の現状を理解していた者が多く、給与に重きを置いていないと考えられた。

「人が好き」の質問項目「人と接することが好き」「コミュニケーションをとることが好き」に50~60%の人が「はい」と回答した。管理栄養士は人と関わることが仕事の基本であることを認識している人が半数はいることが明らかとなった。管理栄養士・栄養士は人を相手とする

仕事であることから、対人関係を育む力、行動力が必要とされる、この理由を選択しなかった者も半数ほどいることから、コミュニケーション力を学生時代に身に付け、自信を持たせる必要性が考えられる。

「きっかけ・憧れ」は、これまでの環境や人間関係から影響を受けた出来事や人が志望動機にどのように関与したかを質問した。家族や知人が管理栄養士・栄養士である者は10%以下であり、身近な人からの直接的影響を受けている者は少なかった。一方、「家族の病気・入院がきっかけ」は32.6%、「管理栄養士・栄養士と接した経験」は21.4%であり、身近な経験をした者もいた。「入学前の体験の機会」とは、地域のイベント、オープンキャンパス等の言葉を指しており、45.1%が「はい」と回答した。オープンキャンパスや事前見学・体験入学を実施する学校が増加している。進路選択に悩む受験生に学ぶ機会を与え情報提供し、ミスマッチが起きないようにするためにも貴重な進路選択イベントである。また、「栄養に関するニュースやテレビ番組、書籍をみてあこがれた」と答えた人が32.2%あることからTV・雑誌などのメディアの影響も少なからず影響すると考えられる。特に料理番組や雑誌では管理栄養士の活躍場面が具体的映像や記事で紹介され、職業イメージが伝わりやすい。「自己表現できる仕事である」と58.9%が回答していることから将来の自分をイメージし、自分らしさやオリジナリティを表現できる仕事ができるという期待を持って志望している者も多いと思われた。職業モデルの存在とその影響は、自己の職業観・人生設計の大きな指標となる。

「世界で活躍したい」者は17.4%と低かったが、今後世界で活躍する管理栄養士・栄養士の存在も今以上に期待されるため、これらの希望をもった学生を受け入れる大学の教育内容の充実も望まれる。

「他の人の勧め・偶然」と回答した学生は26.3%であった。約70%の人は主体的に選択、決定し入学していた。他者にあと押しされ選択した学生は真に学びたいのか、管理栄養士・栄養士になりたいのかははっきりしない状態で選択

した可能性がある。榎本らは、看護学生に対する調査で、入学動機が本人の「希望であった」者の方が「自己教育力」が高いと報告している⁽⁸⁾。進学を主体的に決定していない学生には、早期に職業についての説明や動機付けを行う支援、ときには進路について個別に相談や確認をする必要もある。

職業選択は時代背景の影響を受けやすいが、18歳人口の更なる減少と超高齢社会、病態・疾病構造の変化の時代において、国の施策における管理栄養士・栄養士の役割への期待は高い。学生のニーズと養成校が描く管理栄養士・栄養士像を、社会のニーズへ擦り合わせていくことも必要であるが、一方で、現在活躍する管理栄養士・栄養士が今より自己の職業に魅力を感じ自己実現できる職業とすることも望まれる。今後も継続的に学生の志望動機や職業観、その変化について調査する必要がある。本論文が大学における教育内容の検討の一助になれば幸いである。

参考文献

- 1) 一般社団法人全国栄養士養成施設協会. 全栄施協月報第649号. 2014
- 2) 厚生労働省. 第29回管理栄養士国家試験合格発表
- 3) 町田和恵、大見奈緒子、油田幸子ほか: 新入学生及び現職管理栄養士・栄養士の職業への魅力・やりがいと職業観についての検討. 鹿児島県立短期大学紀要60: 19-34, 2009
- 4) 上妻瑞江、安友裕子、山中克己ほか: 看護学生の入学時における学科志望動機. Nagoya Journal of Nutritional Sciences 1: 99-108, 2014
- 5) 坂本薫、橘ゆかり、小泉弥栄ほか: 食物栄養学専攻の教育内容と卒業生の実態. 賢明女子学院短期大学研究紀要 38: 41-54, 2003
- 6) 西村美津子: 栄養士校外実習における職業意識向上への関連要因. 山陽学園短期大学紀要 45: 1-10, 2014
- 7) 平成26年賃金構造基本統計調査. 厚生労働省
- 8) 榎本朋子、田邊美津子: 看護学生の入学動機と自己教育力との関連. 川崎医療短期大学紀要 32: 7-13, 2012

管理栄養士・栄養士の進学動機に関する調査

学校名 ()

1、年齢、性別、出身地を記入してください。

年齢: () 歳 性別: 男 ・ 女 出身地: () ※都道府県名を記入

2、入学前の学歴等について下記のどれでしたか

高校生・専門学生・大学を卒業・短期大学を卒業・社会人・その他()

3、2で社会人と記入した方にお聞きます。社会人の前の学歴は下記のどれでしたか

高校生・専門学生・大学を卒業・短期大学を卒業・その他()

4、学校へはどこから通っていますか

自宅 ・ 下宿

5、なぜ、管理栄養士・栄養士の道を選び栄養士養成施設(大学、短大、専門学校)に入学しようと思いましたが？ 下記の質問に、はい・いいえのどちらかで回答してください。

- | | |
|--|----------|
| 1 他の人に勧められた
主にどなたの勧めですか → 父・母・兄弟・学校の先生・その他() | はい ・ いいえ |
| 2 人とコミュニケーションをとることが好きだから | はい ・ いいえ |
| 3 将来の職業に自己表現できる仕事だと感じた | はい ・ いいえ |
| 4 人と接するのが好きだから | はい ・ いいえ |
| 5 家族の病気や家族の入院などから管理栄養士・栄養士にあこがれた | はい ・ いいえ |
| 6 入学前に栄養に関して学んだり体験する機会
(地域のイベント、オープンキャンパス等)があり、あこがれた | はい ・ いいえ |
| 7 過去に管理栄養士・栄養士と接したり、指導を受けた経験(病院、小学校など)から
管理栄養士・栄養士にあこがれた | はい ・ いいえ |
| 8 家族に管理栄養士・栄養士がおり、あこがれた
家族の中のどなたですか → 父 ・ 母 ・ 兄弟 ・ 祖母 ・ 祖父 ・ 親戚 | はい ・ いいえ |
| 9 知人に管理栄養士・栄養士がおり、あこがれた | はい ・ いいえ |
| 10 栄養に関するニュースやテレビ番組、書籍をみてあこがれた | はい ・ いいえ |
| 11 栄養に関することに興味があり学んでみたいと思った | はい ・ いいえ |
| 12 社会に出てから人のために役立つ仕事がしたいと思った | はい ・ いいえ |
| 13 身近な人を助けたい | はい ・ いいえ |
| 14 世界で活躍したい | はい ・ いいえ |
| 15 国家資格が得られることに魅力を感じた | はい ・ いいえ |
| 16 初任給が他の職業の同じ年代の人よりも高いと思った | はい ・ いいえ |
| 17 再就職や転職がしやすいから | はい ・ いいえ |
| 18 食べることや料理が好きだから | はい ・ いいえ |
| 19 自分の学力に合った学校が栄養士養成施設であった | はい ・ いいえ |
| 20 たまたま現在の学校に合格したから | はい ・ いいえ |
| 21 将来、管理栄養士の資格をとろうと考えていますか | はい ・ いいえ |

Abstract

The motives of students at nutrition school for choosing to study the subject of nutritional sciences.

Hiroko Yasutomo*¹, Katsumi Yamanaka*¹, Yoshihiro Hirata*² and Mizue Kozuma*¹

Purpose: To know the motives of nutrient school students for choosing a nutrient course in a university, a junior college or a vocational school.

Method: Cross sectional research was conducted with students in one university, one junior college and one vocational school using a self-administered questionnaire (21 questions) in July, 2011.

Results: The number of analyzed by the questionnaire was 160 from the university, 86 from the junior college and 58 from the vocational school. The percentages of the top five motives chosen were ranked as follows: 1) Love to eat or cook (94.4%); 2) Interested in nutrition (93.1%); 3) Want to help people (81.6%); 4) Help for people (79.9%); 5) Want to get a nutritional license “registered dietitian” (76.6%) . The percentage of the low five motives chosen were 1) Being a dietitian in the family (5.3%); 2) Being a dietitian in the acquaintance (7.2%); 3) Passing the entrance examination by chance (10.5%); 4) Being a high value of a starting salary (14.1%); 5) Playing an active role in the world (17.8%).

*1 Department of Nutritional Sciences, Nagoya University of Arts and Sciences

*2 Nagoya Nutrition collage